

## 出題形式練習 解答・解説

解答は下の QR コードから  
も見るができます

P33

- 1 1、エ 2、観測・唱(える)

1、「ひときわ」は、他と比べて目立つ様子。

副詞は、主に用言を修飾する。ゆっくり・もつと・さっぱりなど。

- 2 1、イ 2、ウ

1、サ行変格活用の動詞は、「する」「―する」のみ。

2、「同様」は、同じである様子。

学生、社会人にとってもアスリートと同じように「心技体」が大切だということ。

P34

- 3 1、ウ 2、イ 3、ア

4、(例)自分の感情と言葉の表現がびつたりと一致しない

(二十二字)

5、イ

1、「伝えナイ」のように、ナイを付けてナイの前がエ段の音なので

下一段活用の動詞である。

2、「表現」と「学習」は似た意味どうしの二字熟語

「寒暖」は反対の意味どうし、「未熟」は上が下を打ち消す、

「着席」は動詞の下に目的語がくる二字熟語。

P35

- 4 1、ウ 2、ア 3、イ 4、イ 5、ウ

1、体言十の十体言(世界十の十物質、空十の十色)

2、「たゆまぬ」は、油断しない・心がゆるまないこと。

3、「私」、イ「秒」の部首はのぎへん、ア「枝」きへん、

ウ「祝」しめすへん、エ「持」てへん

4、「豊かに」は「豊かだ」と言い切れるので、形容動詞。

5、十行目以降に書かれている。

P36

- 5 1、ウ 2、イ 3、ウ

4、地球が数百年前の気候に戻ることは期待できない

(二十二字)

1、「多い」「寒い」は形容詞(終止形が「い」で終わる。)

「大きな」は連体詞

「静かだ」は形容動詞(終止形が「だ」で終わる。)

「歌う」は動詞(終止形がウ段の音で終わる。)

3、「追隨ついでを許さない」は、群を抜いて優れていること。

4、最後の段落にまとめられている。

6

- 1、①おもい ②ように 2、ウ 3、イ

1、「ひ」は「い」、「やう」は「よう」に直す。

2、蝸牛を食べたい驚が、鳥からその方法を教わるという本文の流れをおさえつつ、傍線部の前後の文脈から読み取る。

3、鳥が「蝸牛を高さ所より落し給はば、その殻、忽ちに砕けなん」と助言していることから、殻を割って中身を食べたいのだと判断する。

(訳) ある時、驚が「蝸牛を食べたい」と思ったけれども、どうしたらよいかわらなかつた。(驚が)悩んでいるところに、鳥がそばから進み出て申し上げたのは、「この蝸牛の殻をなくすことはとても簡単なことでございます。私が申しますようになさつたあとに、私にその半分を与えてくださるならば、教えて差し上げましょう」と言った。驚は同意してその方法を聞くと、鳥が申すには「蝸牛を高いところからお落としになれば、その殻はすぐに砕けるでしょう」と言った。すぐに、(鳥の)教えのようにすると、提案通りに簡単に蝸牛の殻を取って、これを食べた。

7

- 1、①いうよう ②うかがい 2、イ 3、イ

1、「ふ」を「う」、「やう」を「よう」、「ひ」を「い」に直す。

2、「馬耳東風」ばじとうふう いかげんに聞き流すこと。

「本末転倒」ほんまつてんとう 大切なこととつまらないことを取り違えること。

「首尾一貫」しゅびいつかん 物事の最初から最後まで、方針や考え方が変わらずに通っていること。

(訳) 高橋作左衛門は、天文学に優れていたので登用されていた。庭に大きな柿の木があつた。毎年秋にその柿を売って少しのお金を得ていた。ところが、その辺の若者が、夜盗みに来ることが何度もあつた。柿の実の守りのために安心して眠れないので、作左衛門は夜眠らずに見回っていた。ある時帰宅して見ると、あれほどの大木が根元から切り倒してあつた。作左衛門が「これはいったいどうしたことか」と驚くと、妻が「私が切らせたのです」と言った。「どうしてそのようにしたのか」と問いたですと、「あなた様は天文学で家をおこしなさるはずです。それなのに、夜ごとに屋根にのぼり、天空を見上げ深夜に至り、柿の木を見張ることに神経をすり減らしておられます。もしこの木がなければ本業に専念できると思ひ、このようにしました」と言ったということである。